

「近畿ろうきん NPO アワード」の奨励賞団体

NPO法人「C・キッズ・ネットワーク」の出前講座



「かき氷屋さん」になった日 模擬体験を通じて金銭教育

子どもたちに本当に必要な消費者教育を——そんな思いで小学生の子どもを持つ消費生活アドバイザーが集まって「出前講座」を始めたのは1997年。2009年に法人格を取得し、地域を巡回して、主体的に行動できる消費者の育成に努めてきたNPO法人「C・キッズ・ネットワーク」。子どもからお年寄りまで幅広く行なう「出前講座」は教材もプログラムもオリジナルで、わかりやすいと評判がいい。

ト。バイト君に1日500円で手伝ってもらったことになったが、バイト君の手が痛くなった。打開のための苦勞を経験させ、売上げ増加策を各班で話し合う。売上げが好調ならバイト君にボーナスを出すことにした班、バイト君の代わりに電動かき氷器を買って効率をあげようとする班などさまざま。売上げと支払うべきバイト代、材料費を計算し、1日ごとの利益がいくらかを考えると、「約束を守ること」「工夫と努力が必要」ということや、「お金は働いて稼ぐもの」であることを学ばせようというのが狙い。

約1時間の講座に、小学校1年生から3年生の子どもたちは耐えられるのかと危惧したが、売上げの増減に「勝った」「負けた」と大騒ぎしながら、大切なことはきちんと受け止めていることが伺えた。

金銭教育の講座内容は、子どもが夏祭りにかき氷屋さんをするという設定だ。商いを疑似体験し、お店の立ち上げから店じまいまでのミニ起業教育と、社会人として必要な3つのメッセージを盛り込んだ参加型のプログラムである。4、5人1組で5つの班を作り、班ごとに知恵を出し合い、売上げを競った。

自分のおこづかい2000円と、お祖母ちゃんに貸してもらった3000円で資本金を用意することからスタート。

大好き。そうしたお店屋さんを題材に、社会体験をすることで、子どもたちが心に刻みつけるものは大きい。

「C・キッズ・ネットワーク」では「生きた消費者教育の必要性がいわれながらも、必要なところに、楽しく身につく学習がなされています。子どもも高齢者も、いわば毎日「契約」しているわけですが、必要な知識がない。ほんとに役立つ知識を必要としているところへ講座をもっていくのが出前講座です。教材もプログラムも私たちのオリジナルで、改良を重ね楽しく分かりやすいものにしました。分かりやすいねという評判が広がって、PTAや地域の自治会、高校の総合学習や大学にも出前をしています。教材作りは近畿ろうきんさんからいただいた奨励金を使わせていただきました」と。

それにしてもお金は「ATMから出てくるもの」と思っている子が多い昨

今。汗水流して働くことの大切さや、労働の結果、手にするお金の重さを感じられる機会も少ない。暮らしをカタチづくる基盤が見えにくくなっている。

ゲーム感覚で楽しみながら暮らしの基礎知識を学ぶ「出前講座」が果たす役割は大きいものがある。

以下は子どもたちの感想である。

「お金は、かりた人にかえすことがわかりました」「しょうばいがおもしろかった」「大人の方がこんなつらい思いをするとは、思っていませんでした。きゅうりょうを出す分がみんな、それぞれがうんだなぐと思いましたが」「ぶつりしがつくはずなのにつかなかった（1年生がいるからしょうがないけど）」「さいしょはうれなかつたけど、バイトくんきてくれたからすぐうれたよ」。



当日参加した「C・キッズ・ネットワーク」メンバー